

ころに主眼点を置き、その上に立って意匠を考案すべく企図されたものである。

2. 対象としては、看護衣（看護婦が勤務時に着用している制服）を取りあげ、過去3回にわたってその調査考案を行なった。調査は、広島市を中心とする病院に赴き、看護婦の仕事、勤務労働状況、その環境、給与状況などを実地に調査し、看護衣に関する意見を直接彼女たちから聴取したり、あるいは、アンケートにとって資料とした。これを検討して、働き易さを中心にして考案したものが1956年に働き着ショーに発表した意匠であり、その折、入手困難であったため白布のみを使用していたのを、診療各科の特色に合わせ、患者などに対する心理的な色彩効果を考慮して淡い色物を使用して考案したものが1960年に同じく働き着のショーに出品したものである。

3. この報告では、これらの調査結果と考案を発表すると共に、最近の看護衣の改良の状況などについて報告する。

B—74 働き着に関する被服構成学的研究
—看護衣について—

広島文化女短大 高橋 房子

1. この研究は、被服の合目的な機能性を求めると